

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課 宮川 耕二 (課長補佐兼県直係長 吉村 文章)	内線	4362 (4376)
------	-------------------	---------------------	----------------------------------	----	----------------

事業種目	道 路	事業名	事業区間	総事業費	9.8 億円	
		道路改良事業 (主)養父山崎線	やぶしひろたに じゅうにしよ 養父市広谷～十二所	内地補償費	6.2 億円	
所在地				事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
養父市広谷～十二所				H17	H17	H21

事業目的	事業内容
<ul style="list-style-type: none"> ・本路線は、国道9号から国道29号に至る但馬と播磨地域を結ぶ幹線道路で、養父市中心部と旧大屋町中心部を結ぶ幹線道路である。 ・当該区間は幅員狭小で大型車のすれ違いが困難で、通学路でありながら歩道がないなど交通の隘路区間となっており、バイパス整備により、円滑で安全な交通を確保する。 ・新市中心部と旧町間の連携を強化するとともに、北近畿豊岡自動車道(養父IC)へのアクセス性を強化させ、「養父市」の充実したまちづくりを支援する。 	<p>道路改良(バイパス) L=1,500m 現況幅員 : W=4.0(5.0)m 計画幅員 : W=6.5(10.5)m ; 2車線+片側歩道(2.0) 現況交通量 : 8,385 台/日 計画交通量 : 10,500台/日</p>

評価視点	評価結果の説明
(1)必要性 安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・当該区間は、人家連担地で幅員が狭小なことから大型車両の離合が困難である。さらに通学路でありながら歩道がないなど交通事故の危険性が高いため、バイパス整備により円滑かつ安全な車両の通行と安全な通学路の確保が必要である。 ・緊急輸送路である本路線の未改良区間の整備により緊急輸送路としての機能向上を図る。
暮らしと交流を支える道づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・本路線は、平成16年4月に発足した「養父市」中心部と大屋町を結ぶ幹線道路であり、旧町間を結ぶ環状道路を構成することから、当該未改良区間の整備により、新市中心部と旧町中心部の連携強化、新市の一体感醸成が図られる。
県土の活用を進める道づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・国道9号から北近畿豊岡自動車道養父ICへのアクセスが向上し、観光・地域産業の活性化が図られる。
地域ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・「新市まちづくり計画」における「交通、情報基盤の整備」として本路線の整備促進を求めている。
(2)有効性・効率性 有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比 B/C=2.3
代替性	<ul style="list-style-type: none"> ・当該区間は人家密集地で現道拡幅が困難である。また、通過交通を排除するうえでもバイパスが最適である。
効率性 (事業執行環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元住民の参画と協働によりルート決定しており、円滑な事業実施に向け、地元の協力体制が整っている。
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ・通過交通がバイパスへ転換することにより、現道沿線集落の生活環境の改善が図られる。
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> ・養父市中心部と大屋町を結ぶ未改良区間の整備により、旧町間を結ぶ2車線の環状道路が形成され、旧町間の連携強化、新市まちづくりを支援することから、地元住民との合意形成を踏まえ、平成17年度より事業着手する。